

*** 事 ***

真柳 誠

例会記録

六月例会 平成十三年六月二十三日

順天堂大学医学部九号館八番教室

一、吉益東洞『古書医言』における儒教経典

館野正美・大山昌道

一、橋田邦彦における「日本医学」の提唱

—その生命観と社会認識を中心に—

瀧澤利行・七木田文彦

十月例会 平成十三年十月二十七日

順天堂大学医学部九号館八番教室

一、公衆衛生の確立における日本と英国

—長与専斎とEdwin Chadwickの果たした役割—

上林 茂暢

一、関東大震災と横浜「関西村」の病院について

中西 淳朗

十一月例会 平成十三年十一月二十四日

順天堂大学医学部八号館三番教室

一、ロンドン病院マトロンの書いた見習生用テキスト

“Lectures on General Nursing”について

平尾真智子

例会抄録

Grace Elizabeth Alt 1146

第二次世界大戦後の看護改革

大石 杉乃

第二次世界大戦の日本の看護政策に大きな影響を与えたのは 'General Headquarters Supreme Commander for the Allied Powers (連合軍最高司令官総司令部。以下、GHQ)'、Public Health and Welfare Section, Nursing Affairs Division (公衆衛生福祉局看護課。以下、GHQ看護課)であった。GHQ看護課は、「保健婦助産婦看護婦法」の制定、厚生省看護課の設立、日本産婆看護婦保健婦協会(現在の日本看護協会)の助成、産婆・保健婦・資格既得者への再教育コースの創設などの事業を五年九か月(一九四五年十月から一九五一年六月まで)という期間に行った。

占領下の看護政策は、その大部分がGHQ看護課長 Grace Elizabeth Alt (一九〇四年七月二日生、一九七八年八月一四日没。以下、オルト)に委ねられていた。占領下の看護政策を理解するためには、オルトがどのような看護思想をもち、それが日本でどのように政策に反映されたかを分析することが